資料

第1回　旧門司駅関連遺構等の展示方策等懇話会　委員意見

- 展示の目的･対象を明確化
- 門司港の近代化とともに初代門司駅が果たした役割を伝える
- そこに何があったか　／　遺構展示物がどの部分にあたるのかを表現
- 観光資源として、まち全体でストーリー性ある展示
- 専門性のあるものを、誰にでもわかりやすく伝えられる表現
  興味をもってもらえる表現（例:鉄道をモチーフとした施設デザイン、SNS、QR、短文でしっかり表現　等）

目的：次世代への「記憶の継承」

門司港地区の歴史、文化、産業、当時の人々の暮らしなどに思いを馳せることができる地域の宝、地域の誇りとして、また、魅力ある観光資源として、市内外を問わず多くの方に情報発信するとともに、次世代へ継承していくことを目指した展示とするために、以下の3つをコンセプトに掲げ、取り組みます。

1. ストーリーでつなぐ空間

門司港地区の周辺施設とも連携した展示を目指します。

- 複合公共施設をハブとして、周辺施設との連携
- 門司港駅での展示等
- どこに何があったのか、どのような役割を果たしていたのか、鉄道史にフォーカスした展示の道を地区へ、展開する。

次世代への「記憶の継承」

2. 魅せるデザイン×デジタル

デジタルの活用や、デザインを工夫しわかりやすい展示を目指します。

- ARやQRの活用等
- 鉄道（遺構）をモチーフとした空間デザイン

3. 誰でも楽しめる展示

専門知識がなくても、誰もが楽しめる・興味を持ってもらえる展示を目指します。

- 図書館の郷土コーナーに子ども向けの絵本等を展示
- 写真等のビジュアルを中心とした展示等

ストーリーでつなぐ空間

鉄道ロード／鉄道史にフォーカスした展示の流れ →

MOJIKO

◂ マーク例
（chat GPTにて生成）

・各展示箇所に、目印となる
ようなマーク及びQRを設置
・門司港の鉄道史にフォーカスした
展示の道「鉄道ロード」を展開する
※マークは、デザインコンペ等で決定

1 門司港駅

・門司港駅で、旧門司駅
の模型や写真を見る
→観光客の興味をひく

2 利便施設

・鉄道（遺構）モチーフの
空間でインスタ映え
→人の流れを、複合施設へ誘導

3 壁面展示

・利便施設～展示コーナーまで
→ 展示コーナーに誘導
・壁面を活用し、門司港地区の
歴史等を解説
実物を展示するコーナーへ誘導

4 展示コーナー

・施設敷地内で発掘された
遺構や出土品等の実物を展示

5 図書館

・詳細な発掘資料や子ども
向けの絵本等を展示

6 九州鉄道記念館

＜鉄道史＞
・JRが保有している様々な
展示を見て、鉄道史を知る

7・8 近隣施設

・関連部署や、地元等と連携し
・どういった展示ができるのか
周辺にどう波及させるか等
模索していく

複合公共施設内展示　施設敷地内で発掘された機関車庫及び遺構の技術に特化した展示を行う

❷ 利便施設

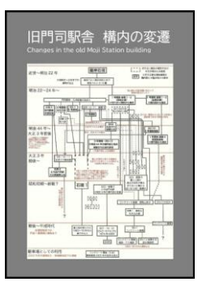
・利便施設の内装デザインは、
鉄道（遺構）をモチーフにする。
（インスタ映え）

イメージ図（chat GPTにて生成）

❸ 壁面展示

・壁面を活用し、門司港地区の歴史等を解説
実物を展示するコーナーへ誘導

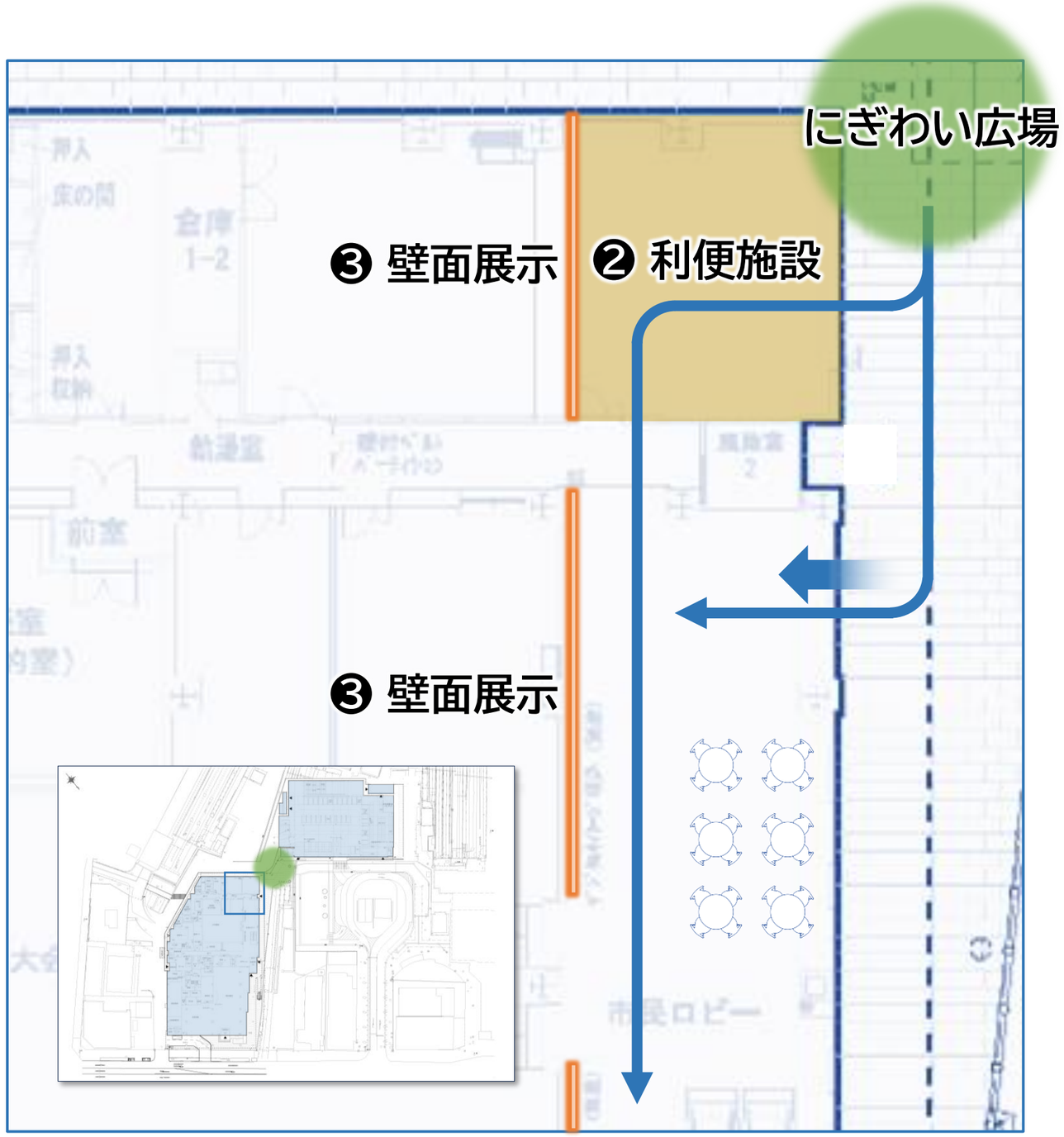
グラフィックイメージ



情報のモジュール化（汎用性の高いA版サイズ）

トヨタ産業技術記念館

JR四ツ谷駅 江戸城外堀史跡展示広場 -外堀と鉄道-



複合公共施設内展示　施設敷地内で発掘された機関車庫及び遺構の技術に特化した展示を行う

❹ 展示コーナー

・一部取出した遺構の床下展示（床面ガラス）

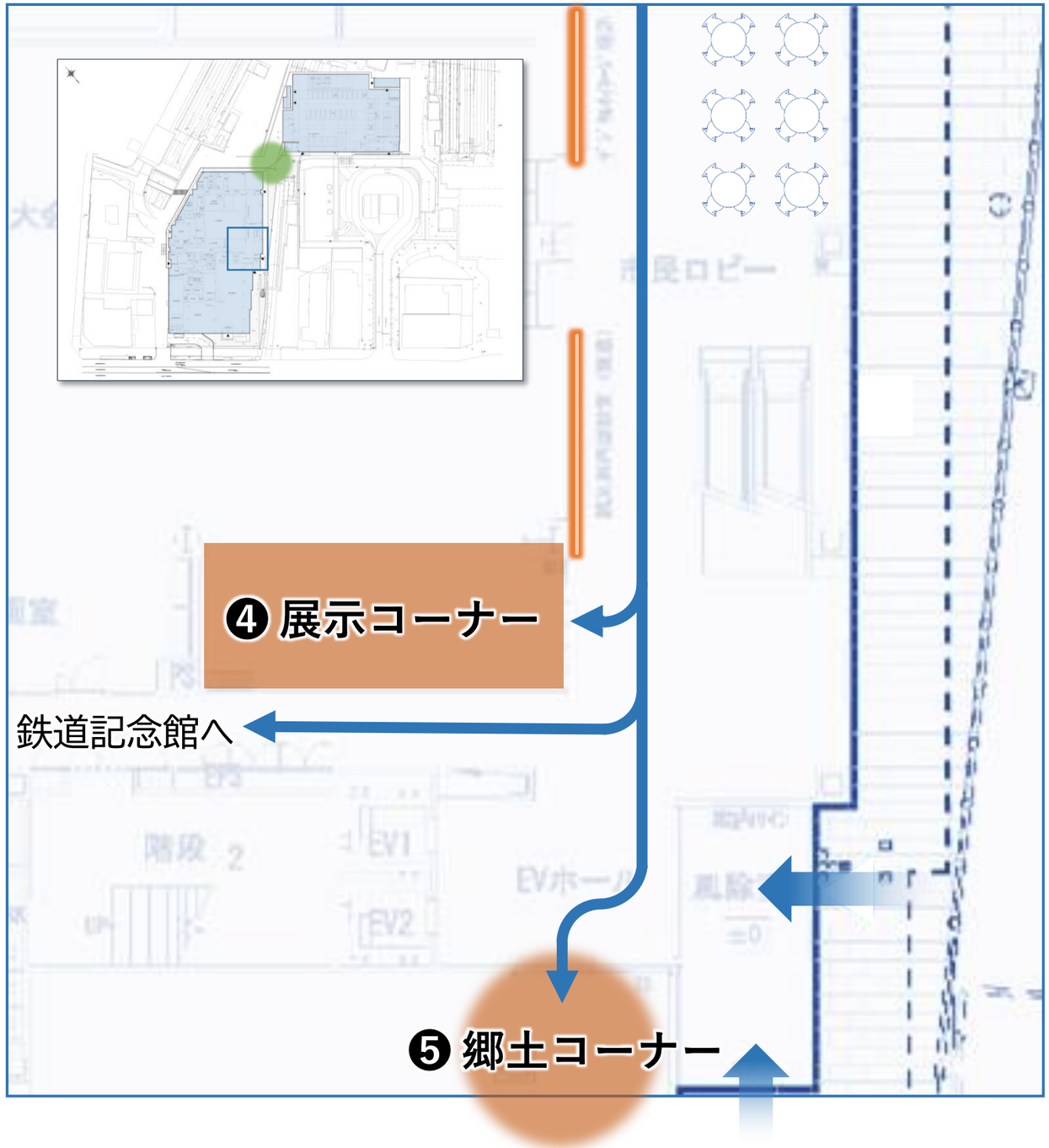
・その他出土品の展示

模型・映像・パネル・グラフィックフロア・AR・QR等を活用し、そこに何があったのか、遺構展示物がどこにあったのかを表現

・施設敷地内で発掘された　遺構や出土品等の実物を展示

❺ 郷土コーナー

・詳細な発掘資料や子ども向けの絵本等を展示



遺構の床下展示案　③壁面展示 ～ ④展示コーナー

遺構展示と映像展示

＞遺構展示と映像の連携演出も可能
＞遺構の見え難い部分を映像によって解説
＞遺構から先達者の知恵「土木技術」を知る

大型映像による総論解説

出土した機関車庫の基礎に現れた近世的な「胴木組」と、近代的な「コンクリート」の共存が確認され、「時代の変化」が「土木技術」として、遺構そのものに写し出されたものと考えられます

サイネージ映像（導入展示）

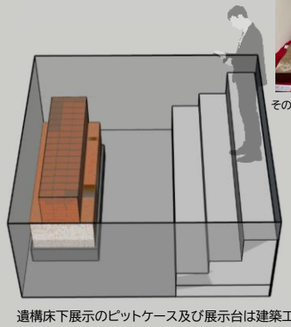
＞休憩スペースの前には、コア展示へのダイジェスト大型マルチ映像
＞コア展示への促すサイネージ映像
＞多種多数の広報ポスターを展開できるサイネージ

床下遺構展示

＞遺構の一部存置

機関車庫の基礎

その他出土遺物展示（煉瓦等）



遺構床下展示のピットケース及び展示台は建築工事

九州鉄道 社標

再現壁面に グラフィック展示

＞後世に残す3つの情報テーマ「歴史」「調査」「技術」
＞機関車庫をイメージした壁面再現による臨場感訴求
＞多言語表示と更新性のある解説パネルデザイン

JR四ツ谷駅　江戸城外堀史跡展示広場

トヨタ産業技術記念館

グラフィックイメージ

グラフィックモジュール（汎用性の高いA版サイズ）

QRなどにスマートフォンを読み込み、来館者が自身のスマホで展示情報や映像が見れる。アーカイブができ、情報の更新は容易

フロアグラフィック展示

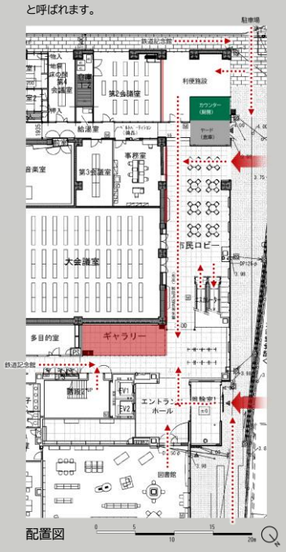
＞空から見た現在と旧門司駅を重ねて地形的価値を考察
＞駅と港が直結した「鉄道と港のまち」の歴史的価値を鳥瞰体感する

ケース：模型展示

＞「門司の価値」を再発見
＞地元者は、文化財の歴史・地域価値を再認識し矜持する
＞旅行者は、当時の門司駅模型で門司の発展を再発見する

AI 展示

AR（Augmented Reality）とは、現実世界にデジタル情報を重ね合わせて表示する技術で、日本語では「拡張現実」と呼ばれます。



配置図

遺構の床上展示案　③壁面展示 ～ ④展示コーナー

遺構展示と映像展示

＞遺構展示と映像の連携演出も可能
＞遺構の見え難い部分を映像によって解説
＞遺構から先達者の知恵「土木技術」を知る

大型映像による総論解説

出土した機関車庫の基礎に現れた近世的な「胴木組」と、近代的な「コンクリート」の共存が確認され、「時代の変化」が「土木技術」として、遺構そのものに写し出されたものと考えられます

サイネージ映像（導入展示）

＞休憩スペースの前には、コア展示へのダイジェスト大型マルチ映像
＞コア展示への促すサイネージ映像
＞多種多数の広報ポスターを展開できるサイネージ

床上遺構展示

＞遺構の一部存置

機関車庫の基礎

九州鉄道 社標

その他出土遺物展示（煉瓦等）

再現壁面にグラフィック展示

＞後世に残す3つの情報テーマ「歴史」「調査」「技術」
＞機関車庫をイメージした壁面再現による臨場感訴求
＞多言語表示と更新性のある解説パネルデザイン

JR四ツ谷駅　江戸城外堀史跡展示広場

トヨタ産業技術記念館

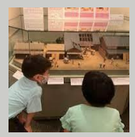
グラフィックイメージ

QRなどにスマートフォンを読み込み、来館者が自身のスマホで展示情報や映像が見れる。アーカイブができ、情報の更新は容易

グラフィックモジュール（汎用性の高いA版サイズ）

フロアグラフィック展示

＞空から見た現在と旧門司駅を重ねて地形的価値を考察
＞駅と港が直結した「鉄道と港のまち」の歴史的価値を鳥瞰体感する

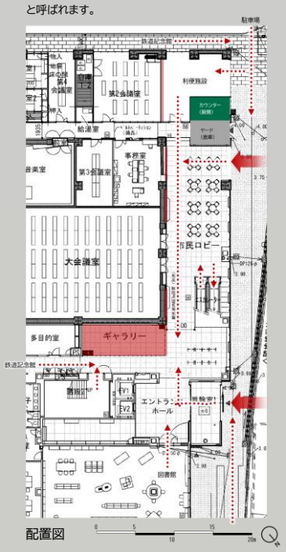


ケース：模型展示

＞「門司の価値」を再発見
＞地元者は、文化財の歴史・地域価値を再認識し矜持する
＞旅行者は、当時の門司駅模型で門司の発展を再発見する

AI 展示

AR（Augmented Reality）とは、現実世界にデジタル情報を重ね合わせて表示する技術で、日本語では「拡張現実」と呼ばれます。



配置図